

第5回地球環境史学会年会

日程：2019年11月16日（土），17日（日）

開催場所：産業技術総合研究所

共用講堂

世話人：板木拓也・天野敦子・鈴木克明・久保田好美・原田真理子

e-mail: t-itaki●aist.go.jp, amano-a●aist.go.jp

行事担当：高橋聡・菅沼悠介

e-mail: stakahashi●eps.s.u-tokyo.ac.jp（「●」を「@」に置き換えてください）

共催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター

1. 日程

1日目：2019年11月16日（土）

10:00~12:00 評議員会

12:30~ 受付開始

13:00~14:00 スペシャルレクチャー

【S-1】多田隆治（千葉工業大学）

「オーストラリアーアジアテクトナイト・イベントの謎と その解明：大規模衝突の環境，生態への影響評価に向けて」

14:00~15:00 トピックセッション

「“チバニアン”と東アジアにおける前期-中期更新世境界の環境変動史」

15:00~16:30 ポスターセッション

16:30~17:30 レギュラーセッション

17:30~18:00 地球環境史学会各賞授賞式

18:30~ 懇親会

2日目：2019年11月17日（日）

9:00~10:00 地球環境史学会総会

10:00~12:00 レギュラーセッション

12:00~13:00 ポスターセッション

13:00~17:00 レギュラーセッション

17:15 閉会

2. 会場とアクセス

- 会場：産業技術総合研究所つくばセンター共用講堂
講堂（講演・総会），ホワイエ（ポスター，懇親会），小会議室（評議員会）
- アクセス：産業技術総合研究所つくばセンターへのアクセスは，以下の URL をご参照ください．会場の共用講堂の場所は，事項の構内地図に示します．当日は正門から会場まで案内板を設置いたします．
https://www.aist.go.jp/aist_j/guidemap/tsukuba/center/tsukuba_map_c.html
- つくばバスターミナル 4 番バス停から関東鉄道バス「荒川沖駅（西口）行（並木経由）」，「筑波宇宙センター経由（学園南循環）」または「桜ニュータウン行」にご乗車，「並木二丁目」で下車してください．つくば駅発のバス時刻表は下記 URL をご参照ください．
http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_files/center/center04.pdf
- 東京駅および羽田空港からも高速バスがごさいます．この場合も，高速道路を降りてから「並木二丁目」で下車してください．
- 駅からタクシーをご利用の方は「産総研つくば中央まで」とお伝えください（約 10 分，約 1500 円）．
- 週末のため，入構できるのは正門のみです．また，基本的に車での来所はご遠慮ください．

産総研つくば中央の位置



ポスター・
懇親会会場



3. 口頭発表とポスター発表について

<口頭発表をされる方へ>

!!!! 注意!!!!

口頭発表はパソコン等持参です。貸出はありません。

- 接続端子は、HDMI か V G A の2種類のみです。
- パソコン等の操作や接続は、発表者ご自身でお願いします。休憩時間などに接続状況をご確認下さい。
- 口頭発表時間は質疑応答の時間を含めて 15 分です。発表時間は 12 分を目安として、時間厳守でお願い致します。

<ポスター発表をされる方へ>

- ポスターボードのサイズは横 120 cm, 縦 180 cm です。一発表につき、指定された 1 面のみをご利用下さい。ポスターの設置場所はホワイエ（口頭発表会場隣）です。
- ポスターは 16 日（土）から貼ることができます。また、17 日（日）の 17 : 30 までに各自撤収して下さい。
- ポスター掲示用の画鋏は会場で用意します。

4. 会 費

年会参加費：一般会員 ¥1000, 一般非会員 ¥3000

学生会員 無料, 学生非会員 ¥1000

懇親会費：一般（職持）¥3,500, 学生・雇用年限付き研究員等 ¥1,000

*お釣りの無いようご協力ください。

*非会員の方も、当日ご入会手続きをしていただけますと、参加費が無料となります。

5. その他

- 講演会場の講堂は飲食禁止です。昼食はポスター会場のホワイエと多目的室をご使用ください。
- 開催当日は週末のため産総研の食堂は営業しておりません。また、コンビニなども離れておりますので、昼食は各自でご持参いただくことをお勧めいたします。
- つくば市内に一般のホテルもありますが、筑波研修センターでもお手頃な値段で宿泊することができます。ご興味がある方は、下記 URL をご参照ください。
<http://www.meikei.or.jp/~center/>
- 写真およびビデオ撮影について：発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します。

第5回地球環境史学会年会プログラム

【11月 16日 (土)】会場：共用講堂・講堂

スペシャルレクチャー

「オーストラリアーアジアテクトニクス・イベントの謎と その解明：
大規模衝突の環境，生態への影響評価に向けて」

【S-1】13:00~14:00 多田隆治（千葉工業大学，雲南大学，東京大学）

トピックセッション

「“チバニアン”と東アジアにおける前期-中期更新世境界の環境変動史」

千葉県市原市の養老川沿いに認められる露頭が前期・中期更新世境界の GSSP（国際境界模式層断面とポイント）候補として提案され，認められた場合は中期更新世を「チバニアン（千葉期）」とする新たな地質時代名が誕生する．この露頭を含む「千葉複合セクション」からは，様々な手法を用いて当時の環境変動史の解読が進められている．本セッションでは，東アジア地域における前期・中期更新世の気候変動とその重要性に関して千葉複合セクションでの最新の研究成果を中心に議論を展開する．

☆発表賞候補

【T-1】14:00~14:15

☆桑野 太輔(千葉大学)， 亀尾 浩司（千葉大学）， 梶崎翔太（石油資源開発株式会社）， 久保田好美（国立科学博物館）， 万徳佳菜子（国立科学博物館）， 羽田裕貴（国立極地研究所）， 菅沼悠介（国立極地研究所）， 岡田誠（茨城大学）， 上総層群における年代モデル構築および表層海洋環境復元への石灰質ナノ化石の貢献

【T-2】14:15~14:30

岡田 誠（茨城大学）， 菅沼悠介（茨城大学）， 羽田裕貴（茨城大学），
千葉複合セクションにおける地磁気逆転記録と地球環境史上の意義

【T-3】14:30~14:45

奥田昌明（千葉県立中央博物館）， 菅沼悠介（国立極地研究所）， 岡田 誠（茨城大学）， 千葉複合セクションから得られた花粉・有孔虫データ等の比較から分かる，日本列島の MIS19 における古気温変動史およびメカニズム

【T-4】14:45~15:00

羽田裕貴（極地研）， 岡田誠（茨城大）， 久保田好美（国立科学博物館）， 菅沼悠介（極地研，総研大）
横川菜々子， 齋藤知里（茨城大）， 林広樹（島根大）， MIS19 における北西太平洋の数千年スケール古海洋変動史

【P-1】☆青山和弘（東京大学），田近英一（東京大学），尾崎和海（東邦大学），顕生代を通じた有機物の陸域及び海洋域における埋没率変動

【P-2】小椋千尋(東邦大学大学院)，山口耕生(東邦大学，NAI) 池原実(高知大学)，ユカタン半島沖の暁新世～始新世の炭酸塩岩の地球化学：天体衝突後の炭素と硫黄の生物地球化学循環の復活過程を探索

【P-3】林辰弥（九州大学），山中寿朗（東京海洋大学），日笠友暉（岡山大学），佐藤雅彦（東京大学），桑原義博（九州大学），大野正夫（九州大学），MIS G4-G3 退氷期の大西洋子午面循環の発達

【P-4】大垣内るみ（JAMSTEC），山本彬友（JAMSTEC），羽島知洋（JAMSTEC），阿部学（JAMSTEC），阿部彩子（U.Tokyo, JAMSTEC, NIPR），河宮未知生（JAMSTEC），MIROC-ES2L による第四紀の特徴的な時代の再現とプロキシとの比較

【P-5】☆稲垣征哉（北海道大学大学院環境科学院），山本正伸（北海道大学大学院環境科学院）中川毅（立命館大学古気候学研究センター），水月湖堆積物コアを用いた古気候変動の復元

【P-6】下野貴也(明治大学)，柳本裕，松本良(明治大学)，ガスハイドレート賦存域,上越沖堆積物の元素分布と過去3万年間の古環境変遷

【P-7】山本正伸（北大），スティーブクレメンス（ブラウン大），関宰（北大），土屋優子（北大），ジョンソフアン（ブラウン大），大石龍太（東大），阿部彩子（東大），過去146万年間の大気中二酸化炭素濃度

【P-8】岡崎裕典（九州大），北太平洋西縁における古黒潮変動 IODP 掘削提案

【P-9】村山雅史，矢生晋介，浦本豪一郎，藤内智士（高知大学），山田泰広，稲垣史生，久保雄介（海洋研究開発機構），襟裳岬西方沖より採取された SCORE 掘削コアの連続元素マッピング

【P-10】岩崎晋弥，木元克典（海洋研究開発機構），岡崎裕典（九州大学），池原実（高知大学），浮遊性有孔虫殻（*T. sacculifer*, *G. ruber*, *N. dutertrei*）の溶解プロセスおよび殻溶解指標の検討

【P-11】高橋聡（東京大学）中田亮一（JAMSTEC），渡辺祐輔（東京大学），高橋嘉夫（東京大学），武藤俊（産総研）遠洋域深海の無酸素環境の示すペルム紀-三畳紀境界大量絶滅事変へのインパクト

【P-12】高橋聡（東京大学），山北聡（宮崎大学），鈴木紀毅（東北大学），前期三畳紀遠洋域深海堆積岩より産したコノドント自然集合体化石と海洋環境への示唆

【P-13】山本彬友（海洋研究開発機構），阿部彩子（東京大学），大垣内るみ（海洋研究開発機構），氷期における1000年スケールのCO₂変動に対するダスト変化の寄与

レギュラーセッション 16:30～17:30

☆発表賞候補

【R-1】 16:30-16:45

吉村寿紘（海洋研究開発機構）石川尚人（海洋研究開発機構），小川奈々子（海洋研究開発機構），日下宗一郎（東海大学），若木重行（海洋研究開発機構），石川剛志（海洋研究開発機構），力石嘉人（北海道大学），大河内直彦（海洋研究開発機構），食物連鎖に伴う必須金属の動態解析と化石・考古生態への応用に向けた魚類の器官におけるマグネシウム同位体比の差異と栄養段階指標の評価

【R-2】 16:45-17:00

村山雅史（高知大学），谷川亘，井尻暁，星野辰彦，廣瀬丈洋，富士原敏也，北田数也（海洋研究開発機構），捫垣勝哉，徳山英一，浦本豪一郎，新井和乃，近藤康生（高知大学），黒田郡調査隊チーム一同，浦ノ内湾から採取された海洋コアの堆積物特性とイベント堆積物（速報）

【R-3】 17:00-17:15

鈴木克明（産総研）加三千宣（愛媛大学），池原研（産総研），新井和乃（高知大学），村山雅史（高知大学），別府湾堆積物最上部にみられる葉理構造の成因推定

【R-4】 17:15-17:30

安藤 卓人（北海道大学・北極域研究センター）沢田 健（北海道大学・理学研究院），松岡 数充（長崎大学）海生パリノモルフの高分子組成を用いた新規指標の開発に向けて

17:30～18:00 地球環境史学会各賞授賞式

18:30～20:30 懇親会〔共用講堂・ホワイエ〕

【11月 17日 (日)】

9:00～10:00 地球環境史学会 総会 [共用講堂・講堂]

レギュラーセッション

10:00～12:00

☆発表賞候補

【R-5】 10:00-10:15

尾崎和海（東邦大） 全球酸化還元収支モデルを用いた中期原生代の大气組成の制約

【R-6】 10:15-10:30

☆三木あかり（東京大学） 田近英一（東京大学）， 尾崎和海（東邦大学）， 原生代後期の全球凍結直後における海水の炭素同位体比変動の理論的解釈

【R-7】 10:30-10:45

☆渡辺泰士(東京大学理学系研究科)， 田近英一(東京大学理学系研究科)， 尾崎和海(東邦大学)， 洪鵬(千葉工業大学)， 太古代の気候安定性における酸素濃度上昇の役割

【R-8】 10:45-11:00

☆三浦優奈（東邦大学）， 尾崎和海（東邦大学）， 全球凍結仮説は大酸化イベントを説明できるのか：硫黄循環に基づく検討

【R-9】 11:00-11:15

☆芳賀万由子(東京大学)， 田近英一(東京大学)， 尾崎和海(東邦大学)
白亜紀の海洋無酸素イベントにおける海洋化学環境と海洋生態系の振る舞い

【R-10】 11:15-11:30

☆樋口太郎 (東京大学大気海洋研究所)， 阿部彩子 (東京大学大気海洋研究所)， Wing-Le Chan (東京大学大気海洋研究所)， AOGCM を用いた現在と白亜紀における大気中の CO₂ に対する水循環の応答の違いに関する研究

【R-11】 11:30-11:45

長谷川卓（金沢大） 外山浩太郎（金沢大（現東大））， A. Paytan（USCS）， 沢田健（北大）， 後藤（桜井）晶子（金沢大）， 長谷部桂一郎（金沢大（現太平洋セメント））， 中瀬千遥（金沢大（現中部開発））
始新世の海水に含まれる硫酸イオンの硫黄同位体比経時変動：CAS と遠洋性重晶石

【R-12】 11:45-12:00

佐川拓也（金沢大学）， 久保田礼実， 牧野梨沙子（金沢大学）， 久保田好美（国立科博）， Yair Rosenthal (Rutgers University)， 後期鮮新世以降の西太平洋暖水塊における表層・亜表層水温

12:00-13:00 昼食（各自持参）ポスターセッション [共用講堂・ホワイエ]

13:00~17:00

レギュラーセッション

【T-5/R-13】 13:00-13:15

☆卯月さくら(千葉大学), 板木拓也(産総研)、泉賢太郎(千葉大学)、羽田裕貴(極地研)、菅沼悠介(極地研)、岡田誠(茨城大学)、久保田好美(国立科学博物館)、放散虫化石の高時間解像度分析に基づく MIS 19 の古海洋環境

復元

【R-14】 13:15 -13:30

垣下涼太(九州大学)、岡崎裕典(九州大学)、板木拓也(産総研)、井尻暁(海洋研究開発機構)、人工知能を用いた放散虫自動拾い出し及び放散虫酸素同位体比の測定

【R-15】 13:30- 13:45

☆泉 孟(高知大学) 井尻暁(JAMSTEC)、池原実(高知大学)、中心型珪藻殻の分離濃集による珪藻殻酸素同位体指標の高精度化

【R-16】 13:45-14:00

☆菊池壮平(北海道大学)、山本正伸(北海道大学)、山本洋司(北海道大学)、Samantha Bova (RutgersUniversity)、Yair Rosenthal (Rutgers University)、海底堆積物 GDGT を用いた過去 150 万年間の西太平洋暖水塊における海面水温および降水量の復元

【R-17】 14:00-14:15

☆下野智大(北海道大学) 関宰(北海道大学)
南大洋 SST スタックデータに基づく鮮新世の CO₂ 濃度と気候感度の推定

14:15-14:30 休憩

【R-18】 14:30-14:45

☆本田春貴(北海道大学)、関宰(北海道大学)、飯塚芳徳(北海道大学)、ドームふじアイスコア中の有機分子エアロゾルトレーサー分析による氷期-間氷期サイクルに伴う炭素質エアロゾル変動の復元

【R-19】 14:45-15:00

☆飯塚睦(北海道大学 環境科学院) 関宰(北大)、堀川恵司(富山大)、山本正伸(北大)、池原実(高知大)、杉崎彩子(産総研)、板木拓也(産総研)、入野智久(北大)、菅沼悠介(極地研)、Matthieu Civel(高知大)、Tina van de Flierdt (Imperial College London)、Liam Holder (Imperial College London)、最終間氷期における東南極氷床変動の復元

【R-20】 15:00-15:15

☆鈴木健太(北海道大学) 山本正伸(北海道大学)、Brad Rosenheim (南フロリダ大学)、大森貴之(東京大学)、Leonid Polyak (オハイオ州立大学)、炭酸塩枯渇堆積物への新しい放射性炭素年代決定法の適用：北極海、アラスカ縁辺の後氷期堆積物への昇温熱分解 ¹⁴C 年代

【R-21】 15:15-15:30

☆Md Arifur Rahman (北大) 関宰(北大)、堀川恵司(富山大)、力石嘉人(北大)
Paleoenvironmental changes in the Gulf of Alaska during the last deglaciation

15:30-15:45 休憩

【R-22】 15:45-16:00

古川圭介(北海道大学)、関宰(北海道大学)、過去 50 万年間の南太平洋亜熱帯ジャイアの変動

【R-23】 16:00-16:15

小田啓邦(産業技術総合研究所)、Xuan, Chuang, Avery, Rachael, Kemp, Alan. (Univ. Southampton)
SQUID 顕微鏡を用いた英国 Windermere 湖の最終氷期堆積物の高分解能環境岩石磁気記録の復元

【R-24】 16:15-16:30

関宰（北大），飯塚睦（北大），堀川恵司（富山大），入野智久（北大），池原実（高知大），山本正伸（北大），Tina van de Flierdt（インペリアルカレッジロンドン），板木拓也（産総研），杉崎彩子（産総研），菅沼悠介（極地研）

東南極域海底堆積物を用いた過去 15 万年間の南極氷床変動復元

【R-25】 16:30-16:45

Ayako Abe-Ouchi (AORI, NIPR), Wing-Le Chan, Takashi Obase, Sam Sherriff-Tadano, Takahito. Mitsui (AORI), Kenji Kawamura (NIPR), Masakazu Yoshimori, Akira Oka (AORI), Rumi Ohgaito (JAMSTEC), Christo Buizert (Oregon State Univ.) Steve Obrochta (JAMSTEC), MIROC AOGCM による Dangaard Oeshger 振動のシミュレーション

16:45-17:00

学生優秀発表賞授賞式

閉会